

八木節 の話

民謡としてはテンポが速く、明るく陽気なリズムが特長です。

歌詞は七、七調でできています。楽に作詞ができるので、昔から様々な歌詞が作られています。囃子(ハヤシ)は笛、鉦(カネ)、太鼓、鼓とそれに樽が加わります。



堀込源太 の話

八木節を完成させた堀込源太は明治5年、現在の足利市堀込町に生まれました。農業や荷物を運ぶ馬方の仕事のかたわら自慢の喉(のど)を鍛え、近在のお

祭り等で仲間たちと唄の上手さを競い合いました。しかし源太は唄だけでは満足せず、独自に工夫を凝らし努力を重ね、ついに「源太節」を作りあげました。この「源太節」で名を上げ、やがてレコードを出し東京、浅草で興行をするまでになりました。

「八木節」の名称は、初めてレコードを出すときに源太の地元に近い八木町(旧八木宿)の名にちなんで「源太節」を「八木節」と改めたのが始まりです。



日本の三大音頭 八木節

心のふるさとをつづった足利の八木節



太平記館観光八木節について

4月～11月 日曜祝日 午後2時～3時

太平記館特設ステージにて足利市八木節連合会に所属する20団体が交代で出演します。

見学無料(雨天の場合は中止になります)

足利市八木節連合会は八木節会館に拠点を置いて以下の活動をしています。

太平記館公演
八木節会館公演
市内／市外の出張公演
八木節教室
子ども八木節教室
「源太杯」競演大会
研修発表会 等

お問い合わせ先

八木節会館

TEL・FAX 0284-71-1214

E-mail yagibushi@03.watv.ne.jp

八木節会館

検索

一般社団法人足利市観光協会／TEL 0284-43-3000
足利市観光振興課／TEL 0284-43-8788

心のふるさとをつづった足利の八木節

日本の三大音頭 八木節

日本の三大音頭

足利観光
八木節



栗田美術館

国宝 鏝阿寺本堂



フあしかが
パーク

日本遺産
史跡 足利学校



足利 観光案内

八木節で案内いたすがオーイサネー

日本の三大音頭
八木節
心のふるさとをつづった
足利の八木節

- 一 足利観光八木節
日本民謡 数ある中で
ノリの良さなら この八木節よ
笛や太鼓に 囃子のこたま
聴けば誰でも 元気になる
それが足利 八木節音頭
弾き語り 足利めぐり
さあ皆様 お付き合いを
頼むが オーイサネー
- 二 街のシンボル
時は中世 十六世紀
集う生徒は 三千越えて
儒学・医学を こころで学ぶ
広く世界に その名は知られ
日本最古の 大学なりて
国を支えた 学問ところ
- 三 幕府政治の 鎌倉時代
源氏足利 義兼公が
建てた氏寺 織姫公様
記の本尊 大日如来
時が刻んだ 文化財にて
語り継がれる 歴史の宝庫
- 四 機場足利 千三百年
暮らし織りなす 守護神として
街を見下ろす 織姫山に
凛とそびえる 朱塗りの社
両手合わせ お参りすれば
縁結んで 幸せ紡ぐ
福をもたらす 織姫神社
- 五 姿残すは 国内唯一
学ぶ原点 足利学校
藤の楽園 世界に誇り
香るあしかが フラワーパーク
世界最大 陶磁器展示
伊万里・鍋島 栗田の館
日本一です 三十三名所
- 六 清き渡良瀬 輝く夕日
世にも珍し 名草の巨石
夢の世界へ 舞い飛ぶホタル
街を染めゆく 季節の花は
ながめ美し 風光明媚
水と緑は 自然の恵み
神が授けた 足利百景
- 七 天下治めた 足利専氏
に 田嶋草堂 絵画の巨匠
響け八木節 堀込源太
相伝あつたの 胸打言葉
意志を貫き 己を信じ
偉業成し遂げ その名も高く
日本栄えた 郷土の誉れ
- 八 家業繁盛 蘭玉市よ
古式ゆかきき 銀行列
良い子育てと 足利花火
夜空彩る 足利花火
日本伝統 あの新能
孔子崇める 儀式の神々
憂さを晴らす 悪口祭り
- 九 心づるおす おいづつ
笑顔花咲く 手作りの和菓子
体遊ぶ こたわりの蕎麦
食べに損する 足利名産
地元素材と 優れた技で
作り出される 確かな味は
どれもオススメ さあ召し上げ
- 十 人が良すぎて 世渡り下手で
口も荒くて 職人かたき
そりゃー見た目の 派手さは無い
真面目コッソリ 働くタイプ
ちよつとコッコも あざめめない
七七軒で 八つで起きる
ねばり強さは 足利生まれ
- 十一 一度訪ねちゃ 歴史を辿り
二度目来た時や 文化に触れる
こは別名 東の京都
来れば来るほど 味わい深い
風情豊かな 足利なれば
お出で下さい 三度も四度も
お待ちしています 我がふるさとへ
- 十二 北に山々 南に平野
差して流れる 渡良瀬川よ
名所旧跡 見どころ多く
想い馳せれば 時代を超えて
この地歩けば 感動誘う
ロマンあふれる 古都足利市
こは日本の 心のふるさと
オーイサネー